町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介するコーナーがステイ・スマイル（笑顔のままで）です。

Stay Smile ステイ・スマイル

Stay Smile 農業の未来へ向かって ～新たな力～

町新規就農支援事業

◆植松高浩さん（立沢）

親の後継者としてセルリー栽培を始めて６年目になります。

標高1000mを越える冷涼な気候を生かした夏季セルリーは国内生産量の約９割を占めます。このところの地球温暖化などで夏場でも30度を越える日が続き、冷涼な気候を好むセルリー栽培も難しくなってきています。自然相手の仕事なので、一日一日、一年一年が同じということはありません。そこが大変なところでもあり、やりがいでもあります。

現在2.5ヘクタールの面積で家族とアルバイトを雇い栽培を行っています。農家の高齢化、後継者不足などで、遊休農地が増えています。そんな農地を利用しながら、面積も増やしていきたいと考えています。

経営者として、品質のいい生産物を作るのはもちろんのこと、それをお金にする力も必要になってきます。儲かる企業として魅力ある農業ができるように、努力していきたいと思います。

Stay Smile 本と遊び、本に学ぶ

富士見町読書活動推進委員会 事務局　☎62-7930

富士見町子ども読書活動推進計画（第2次）

～今回は「西山保育園」の活動のご紹介をします～

【保育園の活動】

＊毎日の読み聞かせ
＊自由に楽しめる絵本コーナー
＊家庭への絵本の貸し出し

各園の活動はさまざまです。それぞれの園で子どもたちの育ちを願い、それぞれの発達段階に応じた豊かな楽しい読書体験を積み重ねられるような環境づくりをしています。

西山保育園の元気っ子たちは絵本が大好き。毎日の読み聞かせを楽しみにしています。絵本は各保育室にある『絵本コーナー』や、『子育て支援室の本棚』、廊下の『お薦め絵本コーナー』から季節や行事、子ども達の興味に合わせて選んでいます。「今日はどんな本にしようかな？」と考えるのは保育士の楽しみの一つでもあります。時には当番を決めて、子どもに好きな本を選んでもらうこともあります。「今日は○○ちゃんのお勧め絵本です」と言って読むとみんなの目はいっそう輝きます。

そんなふうに読み聞かせを楽しんだ絵本は子ども達にひっぱりだこ。人気の本は読みこまれた分だけ傷みが進んでいきます。そこで先日はバラバラになってしまった絵本を地域のおじいちゃんのところに持ち込んで製本し直してもらいました。厚い本を一枚一枚はがし、やぶけてしまったところに和紙や布、のりを入れて補強、一ページずつ丁寧にプレスする作業は気の遠くなるものでしたが、匠の手で蘇った絵本は、また元気にお友達の元にもどることができました。

これからも絵本を楽しむ心と絵本を大切にする心、その両方を伝えていきたいと思います。

楽しい読み聞かせ
元気に動き回っていたみんながピタリと止まり、目が輝くひと時。先生と子どもと絵本の温かいひと時。

さっきのカエルはどれだ？
雨上がりの庭で出会ったカエルは何ていう種類？そんな時は早速図鑑を広げてみんなでカエル博士。

※次回は落合保育園の読書活動について紹介します。

Stay Smile 地域の誇りと探究

井戸尻考古館　☎64-2044

昭和33年の井戸尻遺跡の発掘をきっかけに、富士見町域ではいくつかの遺跡が発掘されました。そこにかかわった人々を振り返りながら紹介します。

曽利（そり）遺跡③（昭和44・47・48年）

水煙渦巻文深鉢やパン状炭化物が出土し、その重要性が明らかになった曽利遺跡。この場所に大規模な買収の計画が持ち上がります。村の発展のため企業への譲渡を望む声がある一方で、祖先の遺してくれた遺産を守るべきだという声が高まります。井戸尻遺跡保存会をはじめとする住民の声に町当局も動き、功刀郁郎さん、平出藤陽さん、平出憲治さんの協力により土地を取得、新たな展示施設として井戸尻考古館の建設が計画されます。

三次にわたる調査では、期待にたがわぬ発見が相次ぎます。それでも武藤雄六さんは、発掘調査報告書にこう記しています。「今回の調査での最大の収穫は、数多い遺構や遺物の発見でも、編年上の問題点の解明でも何でもなくて、この調査に参加した農家の主婦の皆さんが、埋蔵文化財の重要性に目覚めてくれたことであった。」と。

もちろんこの一連の発掘では、当時の文化を解明するうえで多くの発見があり、重要な研究がなされました。その一つが石器です。生産活動を直接的に物語る石の道具が、小林公明さんにより農具として体系的に整理されました。藤森栄一さんの意思を受け継ぎながら研究を続けてきた縄文農耕を、道具の面から究明しようとしたものでした。

▲第29号住居址の土器

▲『靴型の鍬』土寄せや間引き、除草に使う

参考：『曽利　第三、四、五次発掘調査報告書』
1978　長野県富士見町教育委員会

Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ～子どもの場所から～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク　☎62-5505

「自由」と「ルール」

小学校放課後のあそびばでこんなシーンがありました。

穴を掘り始めたら楽しくてもっと大きく深く掘りたい１年生、でも、そこはちょうど斜面の下でそり滑りのコース、草ソリをしていた２年生は「そこはソリコースだから掘るなよ」と抗議。１年生は「ちがうよ、僕の場所だもん」と泣きながら訴え譲ろうとしません。

言葉でのやりとりだったので、スタッフは口出しせず様子を注視していました。とは言っても、言い合いはエスカレートし、収めどころが難しくなっていきます。放課後のあそびばは全部が自由につかっていいフィールドです。ここはボール遊びの場所、ここはソリの場所、ここは掘る場所、と決めていません。なのでどこをどう使って遊んでもいいのです。あえて、そうしています。そこで皆が自由に遊ぶと当然前述のようなぶつかり合いが起こります。でも大人が場所を区切ることはしません。それは、このぶつかり合いから子どもたちに体験的に学んで欲しいことがあるからです。それは「自由」と「ルール」の感覚です。たくさんの人間が共存する場所で、自分のやりたいことをやりたいようにやる「自由」が保障されるということは、他の人の自由も同時に保障されなくてはいけなくて、そのためにはルールが必要になってくる、ということを体験から学んで欲しいのです。だから、あそびばで大人の決めたルールは必要最低限です。それは一言で言うと「自己責任」。自分で考えて自由にやる、ということは、そのことで起こるいろんなことは自分で負うということです。もちろん子どもの力で対応できないことは大人が手助けします。大事なことは、小さな頃から自由とルールの感覚を養う体験をすることだと思っています。この感覚が育てば、自分のことしか考えない「自由」ではなく、本当の意味での「自由」を理解し、心身ともに開放され楽しむことができ、そこにいる全員にとって心地よいルールを自分たちで作っていけるのだと思います。